

高架道路・橋梁点検車

復建調査設計が導入

需要増に対応、作業円滑化へ

復建調査設計㈱(広島市東区、小田秀樹社長)は、右肩上がりが増える橋梁点検業務に対応するため、「高架道路・橋梁点検車」を導入した。コンサ

ル企業が橋梁点検車を独自に保有するのは、全国でも先進的なケース。24日には広島市東区の広島東照宮で、納車した橋梁点検車の安全祈願祭を開

いた。橋梁点検車については、これまで高架道路や橋梁の管理を行う国や自治体等が独自に保有する事例はあったものの、点



導入した点検車



安全祈願のようす

検業務を受託するコンサル企業は、レンタル等によって橋梁点検車を確保していた。だが、近年、点検業務は大幅に増加。これに伴い、橋梁点検車の使用頻度も増え、その手配も希望時期には叶わない状況が発生している。さらに、昨年には5年に1回の近接目視による定期点検などを義務付ける省令・告示が公布され、今後ますます橋梁点検車を使用する点検業務は引き合いが多くなる。が見込まれている。そこで、同社では、増加する業務量に対応しながら、点検業務を円滑かつ機動的に遂行することを狙いに、橋梁点検車を独自に保有することを決めた。

導入された橋梁点検車は、操作性や応用範囲に定評がある㈱タタノ製のBT-200。諸元は最大地下深さ5.4m、最大地上高7.0m、最大作業半径5.1mで、架装対象車は3.5t車級。3.0mの大型パレットデッキ(積載荷重200kg)を搭載し、下アームは最大8.21mまで伸びる構造となっている。操作は、高所作業車技能研修を修了した同社保全技術課の全社員など約20人が行えるという。

導入に関して、小田社長は「我われのクリティカルパスとなっている橋梁点検車の需要は非常に多い。今回の導入によって、維持管理や補修分野で少しでも貢献できればと思っている。また、よりキメ細やかなサービス提供もできると考えている」と話している。

同社では、平成25年度に130日間、橋梁点検車を使用した。今後は、自社での活用をはじめ、第一復建㈱や㈱日本構造橋梁研究所といったグループ会社とも連携しながら、稼働率を上げていく考えだ。